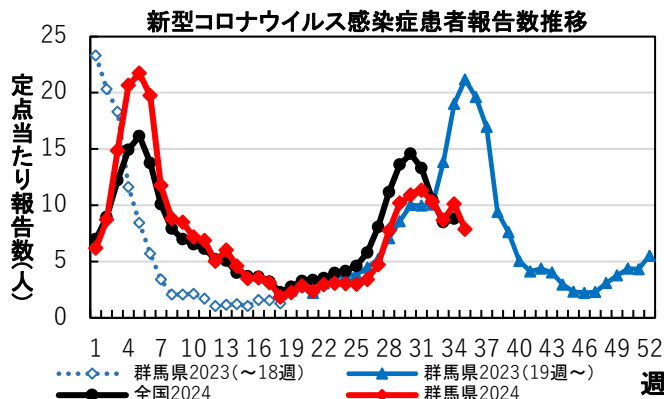
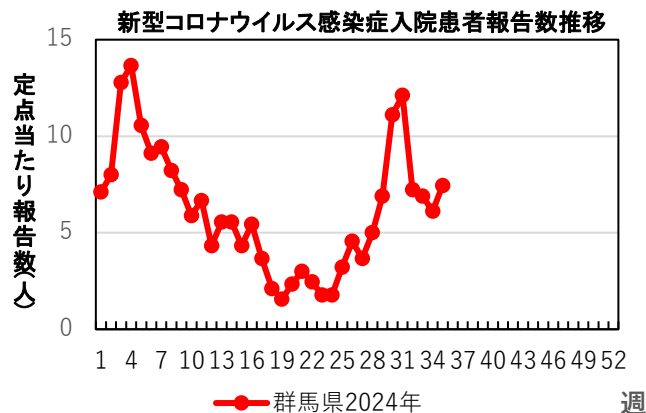


● 新型コロナウイルス感染症（定点報告疾患）

- ◆ 2024年第35週（8月26日～9月1日）の定点からの報告数は670人（定点当たり7.88人）でした。
【第34週（8月19日～25日）：849人（定点当たり10.11人）】
- ◆ 年齢群別で50歳代が114人（17.0%）と最も多く、次いで10歳未満・40歳代が101人（15.1%）でした。
- ◆ 2024年第35週の基幹定点からの入院患者報告数は67人（定点当たり7.44人）でした。
【第34週：55人（定点当たり6.11人）】

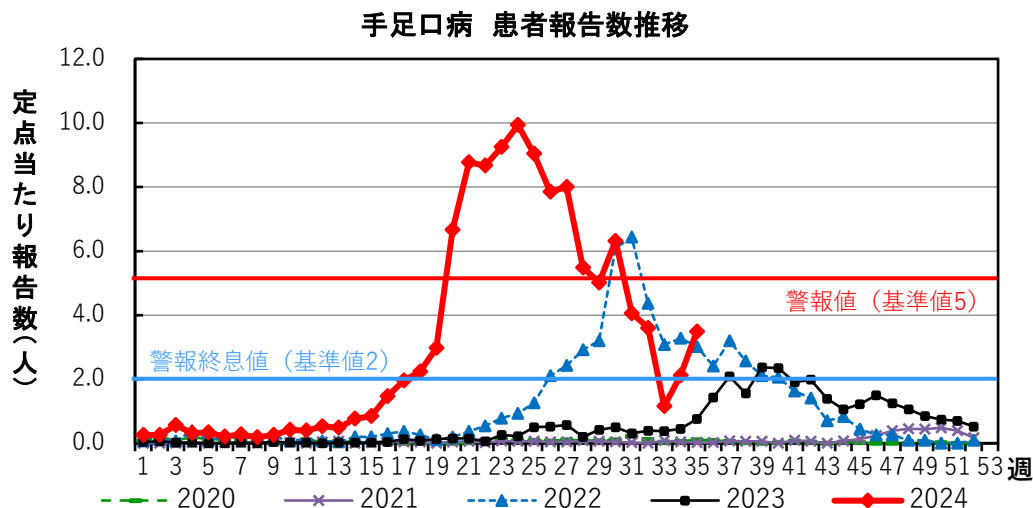


※2023年第1週から第18週までは厚生労働省が発表した
定点医療機関合計報告数と定点当たり報告数
(令和4年10月3日～令和5年5月7日の週次データ) から作図



● 手足口病（定点報告疾患）

- ◆ 2024年第35週の定点からの報告数は185人（定点あたり3.49人）でした。
【第34週：109人（定点当たり2.10人）】
- ◆ 年齢群別で年齢群別で1歳が42人（22.7%）と最も多く、次いで2歳が31人（16.8%）でした。



●新型コロナウイルス SARS-CoV-2 ゲノム解析について (Vol.54)

新型コロナウイルスゲノム解析結果(2024 年第 33 週(8 月 12 日～18 日)まで)

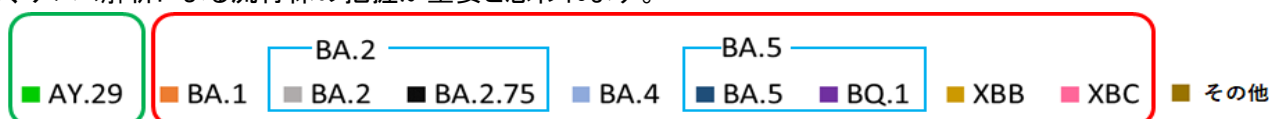
県内では、オミクロン株が 2021 年第 50 週(12 月 13 日～19 日)に初めて検出され、2022 年第 1 週(1 月 3 日～9 日)以降、BA.1 が主な流行となりました。

2022 年第 2 週(1 月 10 日～16 日)に渡航歴のある患者から BA.2 も検出されましたが、その後の拡大はみられていませんでした。第 9 週(2 月 28 日～3 月 6 日)以降、BA.2 の検出が増加し、主な流行となりました。第 25 週(6 月 20 日～26 日)以降、新たに BA.5 が主流となりました。

2023 年 15 週(4 月 10 日から 16 日)以降は、XBB が目立って検出されるようになり、主流となっていると考えられます。

2024 年は、JN.1 (BA.2.86 系統) や、その子孫株の 1 つである KP.3 が検出されています。

新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症に変更となりましたが、引き続き医療機関での検体収集の協力により、ゲノム解析による流行株の把握が重要と思われます。



(デルタ) ※ (オミクロン) ※

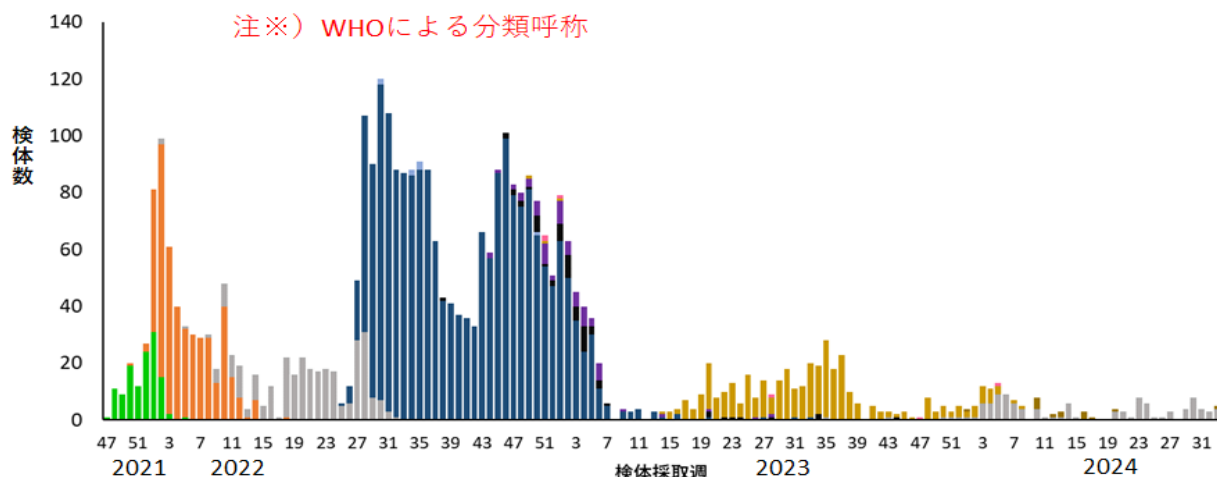


図1 新型コロナウイルス分子系統の時系列解析(検体数)【群馬県衛生環境研究所実施分】

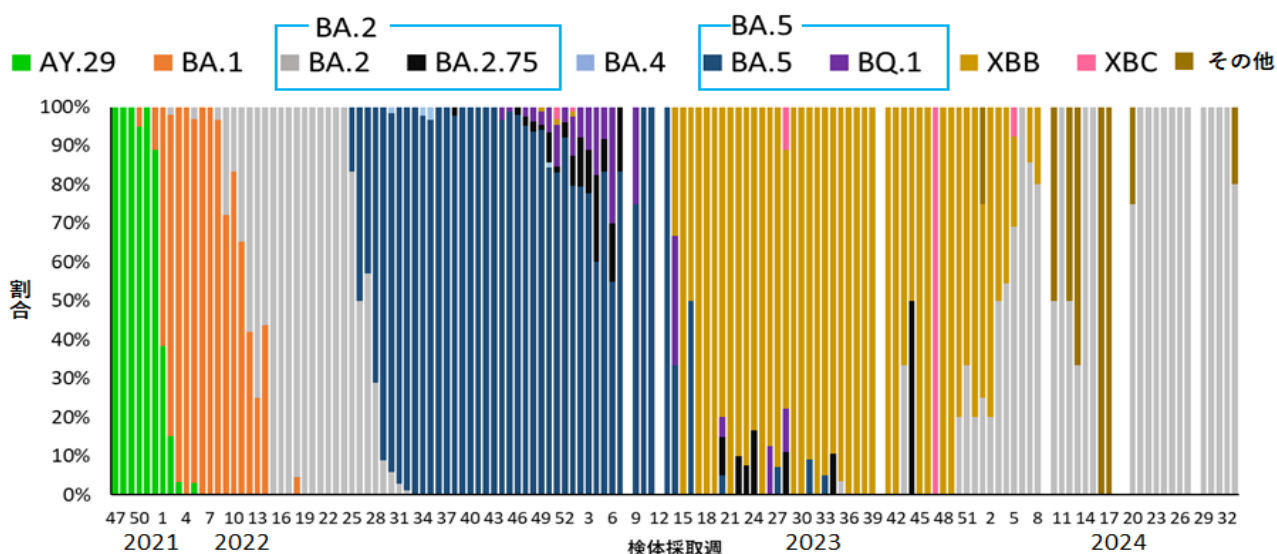


図2 新型コロナウイルス分子系統の時系列解析(割合%)【群馬県衛生環境研究所実施分】